

人口から見る、名寄の課題

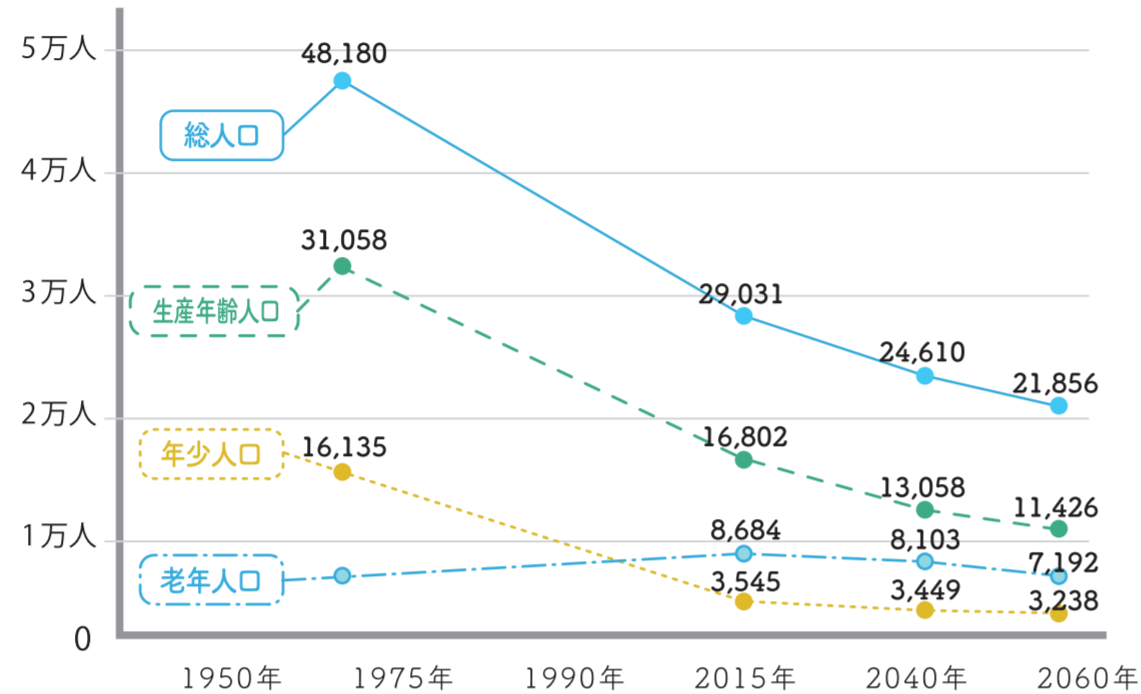
2040年には24,610人。高齢化率は32.9%。

名寄市の人口は、1960年の48,000人をピークに減少の一途をたどっています。加えて少子高齢化も進み1980年には5人で1人の高齢者を支えていましたが、現在は2.3人で1人、2040年には1.6人で1人を支える計算となります。

人口減少や少子高齢化が進むと、街にあったお店やサービスがなくなったり、近所や町内会などで持ち回りでやってきた活動が維持できなくなる可能性が高まります。

人口減少は避けられないため、人口減少をいかにゆるやかにするか、人口が減っても幸せに生活できるまちをどうつくっていくかを、市民と行政がともに考えていく必要があります。

名寄市の人口推移



(出典:名寄市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン)

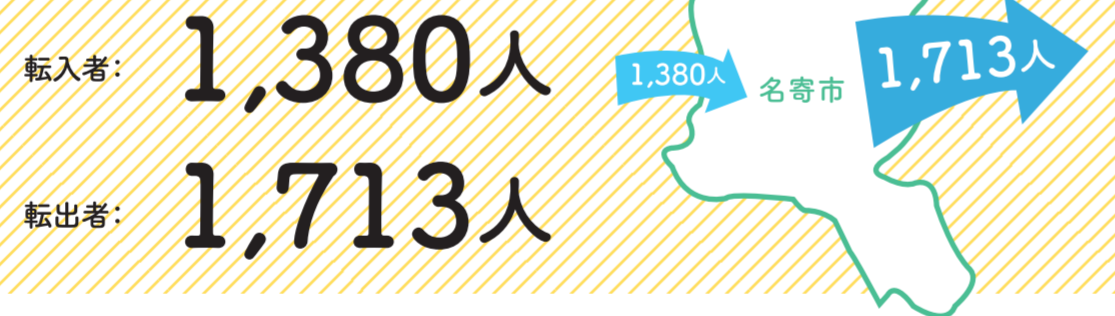
※「生産年齢人口」 15歳以上65歳未満が対象
「年少人口」 15歳未満が対象
「老年人口」 65歳以上が対象

どうして人が減るのだろう？

人口減少をゆるやかにするためには、名寄市の人口が減る理由を知っておく必要があります。自然減（生まれてくる人より亡くなる人が多いこと）は全国的な課題ですが、名寄市はさらに、社会減（引っ越してくる人より出ていってしまう人が多いこと）が人口減少に大きく影響しています。

18～22歳（高校卒業・大学卒業）の転出者は300人ほどですが、この世代は名寄駐屯地への入隊や名寄市立大学への入学などで転入者もほぼ同数です。しかし、20～30代前半の転出超過（転入者よりも転出者が多いこと）が大きくなっています。

社会減



自然減



(2015年度の住民基本台帳より)

人口が減少すると起きること

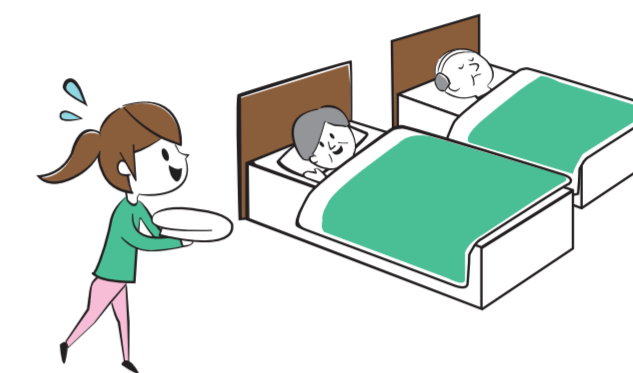
「いつものあのお店」がなくなるかも？

名寄市や近隣自治体の人口が減ると、市内の飲食店やお店に買い物に来る人が減り、結果としてお店や商業施設が閉店、撤退する可能性が高まります。



福祉施設はあるけど、職員が足りない?!

安心して健やかに生活を送るには、医療・福祉施設は欠かせません。名寄市は現在、医療・福祉分野の環境が充実していますが、サービスを担う人材が人口減少などの理由で、より不足する可能性があります。



公共サービスをだれが支える？

教育、医療、警察、消防など、人が生活を営む上で必要な仕組みは、税金などをもとに運営されています。人口減少が進行すると公共サービスの縮小または、一人ひとりの負担が増える可能性があります。



A2. 1911（明治44）年。最初の電話番号「1」は名取酒造店。4や9の希望者はなく、「42」は役場となりました。

Q3. 戦後の名残を感じるめずらしい長屋商業建築「二条市場」。現在営業中のお店は何店舗でしょう？（答えは10ページです）

(「人口減少対策に係るアンケート調査」より)